

岐阜市立陽南中学校

社会科の取組について



社会科学研究主題

広い視野に立って、

よりよい社会の実現を目指す生徒の育成

社会科で育成を目指す資質・能力

- ・ 課題の解決に必要な情報を収集し，社会的な見方・考え方を働かせて読み取り，まとめる力
- ・ 社会に見られる課題を把握して，客観的資料と人間の営みの両面から，社会的事象の意味や相互の関連を考察する力
- ・ 既習内容や生活経験を基にして，課題解決とその方法の見通しをもち，主体的に社会的事象について調べ，ねばり強く関わろうとする力

授業展開例

まとめ

問い：ねばり強く
考えを広げたり
深めたりする

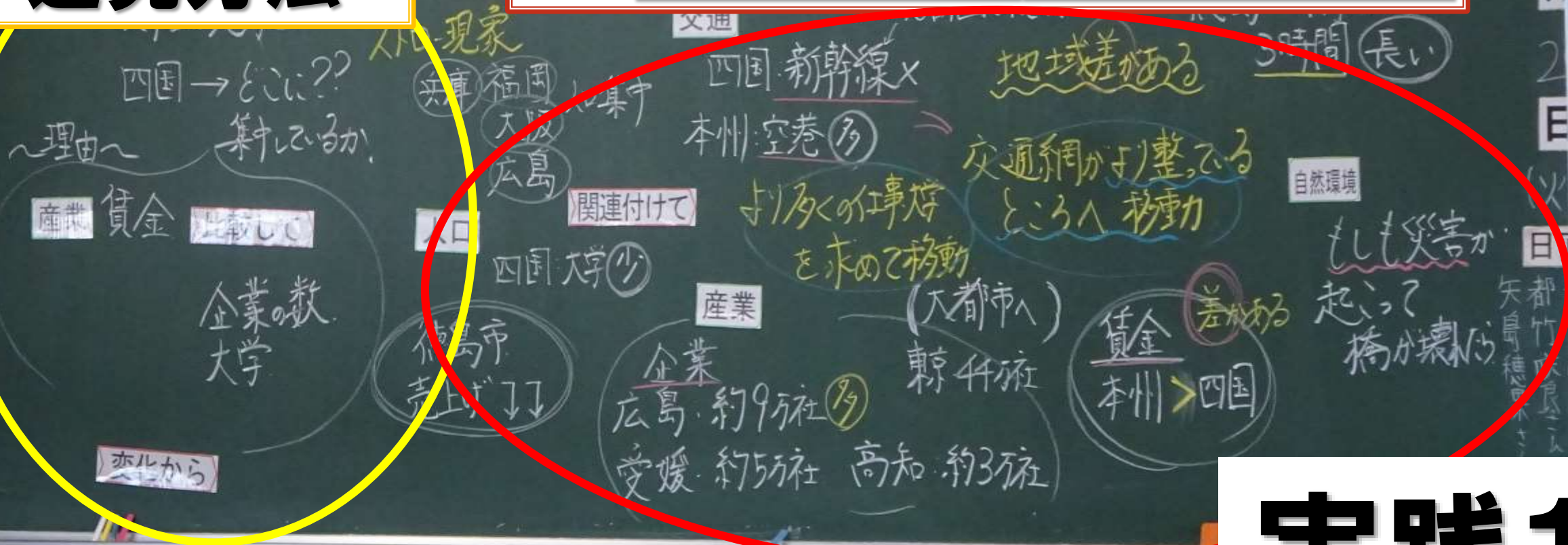
課題の設定

課題解決への見通し
追究方法への見通し

個人追究
全体追究

見通し 課題解決 追究方法

根拠のある資料を 探し出し課題解決



実践 1

資料集

追加テキストはありません

1班

追加テキストはありま…

2班

四国地方よりも東京とかの都市…

3班

追加テキストはありま…

4班

追加テキストはありま…

5班

追加テキストはありま…

6班

追加テキストはありません

この資料集には、中国と日本の地理的関係に関する様々なデータと分析がまとめられています。主な要素は以下の通りです：

- 人口と産業の成長：**「私の学習で、人口が多いと産業が発展すると分かったから」という手書きのメモがあり、中国の人口増加と産業発展の相関性を示しています。
- 都市化と人口移動：**「人口の多い都市で産業をするため」というメモは、中国の都市化と人口移動の傾向を説明しています。
- 四国地方の人口減少：**「四国から人口が減った」というメモは、中国の四国地方における人口減少の現象を指しています。
- 交通と貿易：**「はしかが広がっている」というメモは、交通の発達による感染症の拡大リスクを指摘しています。
- 産業構造の比較：**「これを取ると人混みは減る」というメモは、産業構造の転換による人口密度の変化を論じています。

また、資料には中国と日本の人口ピラミッド、GDP比較表、および中国と日本の主要都市の位置図が掲載されています。

探し出した資料の共有

生徒活用資料(一部)

9/16 高速道路ネットワークの拡充に伴い、四国に「コンビニ」が展開

- 昭和63年当時、四国内の「コンビニ」は各県庁所在都市を中心に出店されているのみでした。
- 本四高速道路をはじめとした高速道路ネットワークの拡充に伴い、流通形態が確立されたことから出店が進んできました。
- 四国の「コンビニ」店舗数は、瀬戸大橋開通から約30年で、8倍以上に増加しています。

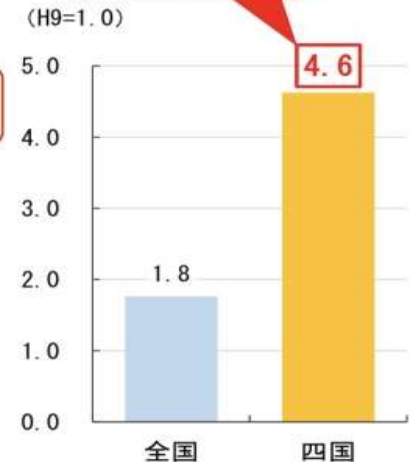
■ 四国コンビニ出店状況の変化



出典：各年次の電話帳をもとに作成
注：電話帳における分類が「コンビニエンスストア」であるものを抽出

■ コンビニ店舗数 伸び率の比較 (H9→H29)

四国の店舗数は、全国と比べて高い伸び率!



出典：「商業動態統計」(経済産業省) より作成



大手コンビニ 四国地区マネジャーの声

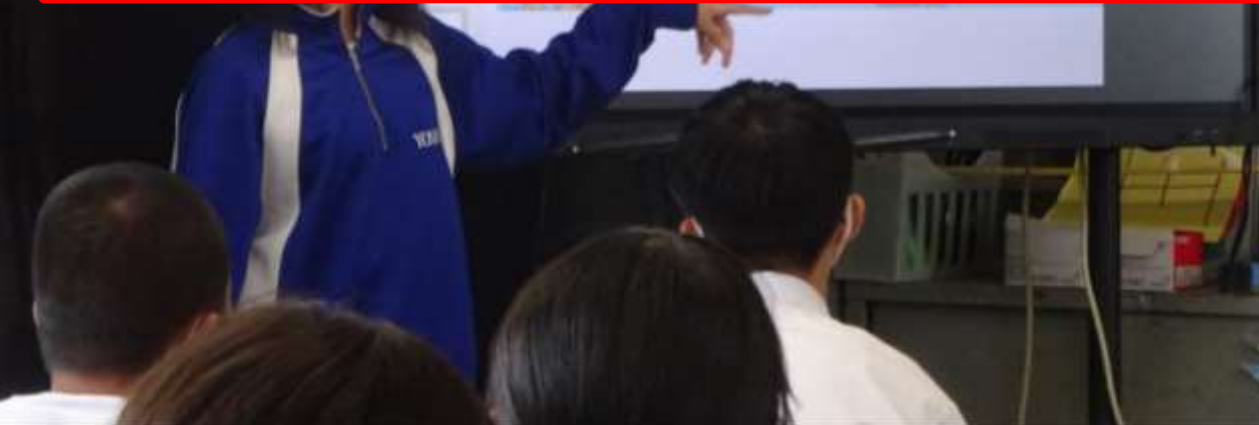
「橋」がなければ、本州側から商品を届けることができず出店が困難でした。お弁当や惣菜類等は四国内の工場で製造しています。雑貨やドリンク等の商品は、本州から瀬戸大橋経由で坂出市の物流拠点に一度集約し、四国全域に配送しています。物流拠点については、本州からアクセスが容易な坂出市に設けています。



4日(火)	
間	18:40
	17:00
	無し



**教科書や資料集, ICTを活用し,
根拠のある資料を探し出し
課題解決に向かう力**



交通網が整備されてきたのに
なぜ四国地方の人口は減少し続けているのか。

人口現象

兵庫 福岡 人口集中
大阪 広島

人口

四国 大学少

関連付けて

交通

四国計画されているが

四国新幹線×

本州空港多

地域差がある

徳島 → 南四国

3時間 長い

交通網がより整える
ところへ 移動力

自然環境

もしも災害が
起ったら
橋が壊れる

産業

企業

広島 約9万社 多

愛媛 約5万社 高知 約3万社

(大都市へ)
県 44社

賃金

差がある

本州 > 四国

徳島市
売上げ ↓↓

課題解決の方向性

客観的資料

- 教科書
- 資料集
- ICT機器

人間の営み

- 教科書
- 教師自作資料

実践2

ゲストティーチャーを活用した課題追究

今日の授業評価

教科評価	
1	教 SA
2	社
3	自
4	
5	
6	

課題

解を貫く課題 前原 葉子
持続可能な社会を実現するために
企業や労働者は、
どのようなことを大切にすべきか？

企業の目的は利潤の追求なのに、
なぜ濃飛倉庫運輸株式会社は、同業他社と協力しているのだろう？

濃飛倉庫運輸株式会社

トランスポート 鉄道積替駅

同業他社と協力 (比較して)

〈予想〉 社には限界がある
よりの遠くへ 助けあうパートナー
かゆいところに手が届く

見通し [法]

有効求人倍率 2.11倍
他の2倍

効率 労働時間長 他より400h長

人手不足 2024.4.1~ 本で運ぶ

物流量増 高齢化 労働者の7-7.ライバランスを守るため

960h上限 公正

過労死 労働災害 希少性 逆高い

物流業界 全体で 2023.4.1~

流通の合理化 650t 鉄道輸送 日々の荷物を運べる

〈信頼信用〉 拠点の共有 中部関東 拠点多

今年2断、したところも サービス向上

CSR CO2

11月18日 欠席



自立

やわらかく
ゆるやかに
進む

中小企業の課題
持続可能な成長のため
企業や労働者の
両者の利益を追求する

企業の目的は利潤の追求なのに
なぜ濃飛倉庫運輸株式会社は、同業他社と大きく異なるのだろうか

濃飛倉庫運輸株式会社
15.7倍

有効求人倍率2.11倍

労働時間長

過労死

長い目で見ると
誰の下り回りで

新少性 逆い高い

他の2倍

1ヶ月前

2024年1月

他より400人少

2024年1月

法 960人上限

公正

15.7倍

物流量(増)

高付合化

労働者7-7.7ヶ月パラス
を守るため

平均年齢(高)

若世代少

<信頼信用>

拠点の共有

中部門

今年と比べたところ

決

サービス向上

流通の

6500鉄道半

1/2

11月18日土 欠席

3年2組
志をもって
仲間の頑張りを
研ぎ澄ます

未来 = 予測困難

社会科学研究主題

広い視野に立って、

よりよい社会の実現を目指す生徒